

越中一宮

<https://www.takase.or.jp>

夏の静寂。

風鈴、朝顔、蝉しぐれ—
真夏の喧騒を離れて、高瀬神社へ。

七月・八月の祭事

月次祭（毎月一日・十三日／九月は一日のみ）

七夕祭並びに技芸上達祈願祭（七月七日）

人形感謝祭（七月十四日）

除熱祭（七月二十一日）

中禮祭（八月十六日）



撮影 朝倉由香理



「牛嶽大明神御開扉大祭」

宮司 藤井秀嗣

令和六年六月六日(木)午前十時より二十一年に一度斎行される「牛嶽大明神御開扉大祭」を奉仕した。砺波平野の南の山麓に富山市(山田村)、砺波市(庄川町)、南砺市(利賀村)の三市と境を接する標高約千メートルの「牛嶽」がある。その頂に「牛嶽大明神」が鎮座しておられる。正式名称は牛嶽社であるが、靈験あらたかな御神徳を尊び大明神と呼ばれている。御祭神は「大國主大神」、国づくりをされた神様で大國様と親しまれている。高瀬神社の主祭神であり、ここは当社の奥宮といわれている。

この山は修験者の山で、山頂に至るまで所々に滝など、修行の場がある。私が小学生の頃は学校の遠足で登るのが恒例であった。郷土の歴史や風土を学び、体力を養う良い機会だった。当時は熊や鹿の出没はあまり聞かず、安心して登山することができた。今は山頂直下約五〇メートルまで車で行くこともできる。大祭当日、参拝者は徒歩や車など各自の手段で登って来られた。ご多忙のところ夏野修砺波市長もお参りいただいた。

山頂からは東は黒部市方面、西は氷見市方面まで見渡せ、立山連峰や

白山まで拝むことができる。大國様は日本の国づくりをされた。越中の国づくりは、この牛嶽山頂に登られ下界を一望、思案された。ゆえに「大國主の山」↓「主の山」↓「主の嶽」↓「うしだけ」となったという説もある。富山市方面から見ると山の姿が牛が寝そべっている姿に似ているからという説もある。

呉羽丘陵を牛嶽方面に登ってくる「牛嶽社」や「牛嶽神社」が点在している。その数四十社ほど。出雲国から大國様がお越しになった時の足跡か、将又、国づくりが成ったお帰りに集中している。また、富山市宮保に鎮座する「熊野神社」は紀伊国の熊野ではなく、出雲国の熊野大社の系列である。大國様と共に越中国に來られたのではないかと考えられる。

二十一年に一度の御開扉大祭はいつ頃から始まったのか詳細は不明である。奉賛会の皆さんが伝統を守ってある。これまでは奉祝行事で獅子舞があったり、餅撒きがあったりしたが、今回は少子高齢化や過疎化という社会状況の変化により行事縮小となり、当日は祭儀のみとなった。しかし、三時間ほどの短時間に百人

以上の参拝者があり、狭い山頂はそれなりに賑やかだった。

御祭神のお姿は牛に乗られた大國様であるが、神仏習合時代の影響なのか、右手に劍、左手に宝珠を持たれている。いわゆる福々しい大國様ではなく、ある意味怖い形相の御神体である。修験者を厳しく導かれるお姿なのだろうと想像するが、本来、一生懸命登って来る参拝者を迎えられる優しい神様である。表向きは厳しい表情でも内面は優しいのが牛嶽大明神様である。

この大祭が定期的に斎行される理由は、広大無辺なる御神徳を更にとりたくというところは勿論だが、大國様につくつていただいた故郷の今の様子をお山の上から俯瞰して、これからの郷土のことを考えなさい。その機会にしないかと思う。そういうことであるならば、県を代表する各界の方々にも登ってもらい、この場所であらうことも必要だ。きつと大明神様から良い知恵を授けていただけることだろう。

次の御開扉大祭に向けて普段からどどん登って、心身健全に励んでもらえると嬉しい。更なる御加護もいただけることだろう。ともかく天候に恵まれ、多くの参拝者を迎えることができた。大國様も喜んでおられるにちがいない。

桜の祭典 春季祭

境内の桜も見事に満開を迎えた四月十日、残雪の里山をわたる春の気配の訪れと、長かった砺波野の冬の終わりを、寿ぐ大祭「春季祭」を斎行しました。

祭典ではご参列の皆様が、間もなく本格化する農作業の順調な進捗と、氏子地域の末永い繁栄と平穩、また稔り豊かな秋の訪れを祈念し、大前に玉串を捧げました。



新緑の境内に、さわやかな初夏の風がそよぐ六月十日、その年の五穀豊穡を祈る「祈年穀祭」を斎行しました。

大前よりいただいた御神火をかかげ、農作物への災いを祓い遣る本祭典、本年は石岡敬夫・藤井秀之責任役員、令和六年度高瀬神社献穀田奉耕者 中田幸礼氏、高瀬区長 中嶋光夫氏他、約四十名の皆様のご参列のもと、

祈年穀祭斎行

―農作物の健やかな生育を祈念して―



盛大且つ厳肅裡な斎行が叶いました。
この日、斎服に身を包み参向使をお努めいただいたのは、となみ野農業協同組合の古瀬悟氏、天候や害虫の障りのない、やがて来る秋の豊穡を祈願する祭文を奏上し、地域農業発展への想いを込めてご神前に玉串を奉りました。



本年の参向使をお努めいただいた、となみ野農業協同組合の古瀬 悟氏と

祈年穀祭 神輿渡御

御神火に祈りを込めて

祈年穀祭翌日の六月十一日、清らかな緑風の中を大神様の御神霊をお遷した神輿と、古式に則り鑽り出された御神火が、南砺・砺波・小矢部の町々を巡行しました。

この日、神輿に供奉されたのは、当神社責任役員 石岡敬夫氏、高瀬区長 中嶋光夫氏他の皆様。例年のごとく、なんと農業協同組合・福光農業協同組合・いなば農業協同組合、そしてとなみ野農業協同組合の四カ所にて御旅所祭を奉仕し、各事業所の皆様のご参列、お見送りをいただき滞りなく還幸しました。



いなば農業協同組合



福光農業協同組合



昭和祭齋行



昭和天皇のご聖業に
想いを寄せて

春告鳥とも呼ばれるウグイスの心地よい声が新緑の境内に響く四月二十九日、我が国の激動の近現代史に、戦後の復興と目覚ましい発展をもたらされた昭和天皇の、数多の尊いご功績を偲んで「昭和祭」を齋行しました。

して平成十九年から現在の「昭和の日」として、今日に至るまで長く国民に親しまれています。

この日、四月二十九日は、昭和六十年までは「天皇誕生日」として、平成元年からは「みどりの日」、そして末永い皇室の弥栄と国の隆昌を祈念しました。



月次祭参列のご案内

高瀬神社では、氏子崇敬者の皆様に月次祭にご参列いただき、ご家族の平安と繁栄を祈念しております。ご参列をご希望の方は、社務所までお問い合わせ下さい。



日時 毎月1日・13日
午前10時
(1月1日・9月13日を除く)

献穀田だより



献穀田奉耕者
井波地域農業者会会長

心を込めて、丁寧に

山の端の雲が初夏の風になびく五月二十五日、高瀬神社献穀田にて恒例の「御田植祭」を齋行しました。

花笠をかぶった可愛らしい早乙女達が、心を込めてひと株ひと株苗木を植えると、本年の献穀田奉耕者 中田幸礼氏他ご関係の皆様が豊作の祈りを込めて拝礼しました。

中田 幸礼氏
西村 精志氏



御田植祭齋行



献花祭齋行

六月十日、高瀬遺跡「菖蒲まつり」の開催にあわせて「献花祭」を齋行しました。

今年で五十回目を数える国指定史跡 高瀬遺跡の菖蒲まつり。この季節には、毎年色鮮やかな花菖蒲が咲き誇り、訪れる人々の心を優しく癒しています。

当日は保存協会の皆様より見事な花菖蒲をご神前にいただき、地域の古代史研究の拠点である高瀬遺跡の益々の発展と、高瀬の里の平穏を祈念して玉串が捧げられました。





人形感謝祭のご案内

古くなった人形に感謝し、お祝い、お焚き上げをするお祭り「人形感謝祭」を行います。

役目を終えた「人形」や「ぬいぐるみ」をお持ち寄り下さい。

日時 7月14日(日) 10:00より
 場所 高瀬神社 本殿
 受付 7月13日(土) 9:00~15:00
 7月14日(日) 9:00~ 9:45
 祈願料 3,000円より
 (手揚げ袋1袋程度につき)

約五五〇個の風鈴の音色
 高瀬神社では、この「夏詣」期間、社殿前などに風鈴を飾り、皆様に涼やかな音色をお楽しみいただいています。
 どうぞ、ご家族お友達お揃いでお参り下さい。



「夏詣」とは…
 「大祓」は年に二度行われます。十二月三十一日の「師走の大祓」で罪穢れを祓い清めてから「初詣」に出かけ、新年の平穩を祈ります。六月三十日の「夏越の大祓」でも同様に罪穢れを祓いますが、その後あらためて参拝する習慣はありませんでした。そこで、半年が無事に過ぎたことに感謝し、残る半年も平穩に過ごせるよう祈る参拝のことを「夏詣」と呼び、新しい習慣として提唱しています。



夏詣期間限定のご朱印

なつもうで
夏詣 開催
 期間 七月一日(月)
 ~ 七日(日)

慣れ親しんだ人形とお別れは寂しいもの。ここにはそんな心を優しく癒してくれるひとときがあります。県内外で幅広く活躍する人形作家と、草月流富山県支部秀抱会とが織り交ぜた、創作人形といけば、その艶やかな共演。心ゆくまでお楽しみ下さい。

期間 7月13日(土)~
 15日(月)
 午前10時~
 午後4時



会場 高瀬神社 参集殿
 ご来場をお待ちしております

第24回 人形展 ~ 一期一会 ~



初宮参りにてご昇殿の赤ちゃんに、お食いち初めの「歯固め石」をお頒ちしています。「丈夫な歯が生えますように」との願いを込めて行う儀式に、この「歯固め石」をご希望の方は、どうぞご祈禱後にお申しつけ下さい。

祝祭日には国旗を掲げましょう



新任のご挨拶

福井県の氣比神宮にて神職の基礎を学ばせていただき、この四月に富山県に戻って参りました。一日も早く皆様のお役に立てますよう、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

権禰宜
 まつもと まさのぶ
松本 正靖
 平成九年
 十一月十九日生まれ





大国さまの処方せん ⑬

「健康な体を保つために
予防リハビリテーションに
取り組みましょう」

南砺市民病院
地域リハビリテーション科
科長代理 吉岡 慎司

【リハビリテーション】
テレビなどでもよく聞くように一般的に使われる用語になってきました。それでも、病院に来院の方とお話をしていると病院に入院したから受けるものというような認識がまだまだあるようです。広い意味でのリハビリテーションとは病気や怪我をしてしまっても、その人がその人らしく生きるために必要な環境や身体機能を整えるものだといわれています。年齢や性別、住んでいる環境に関係なく全世代にリハビリテーションは適用されます。

さて、近年では予防的な要素でリハビリテーションを行うことも重要視されています。特に働く世代では職業腰痛が社会的な問題となり、会社単位で腰痛予防に取り組み活動が広がってきています。腰痛は体幹（たいかん）筋とよばれる腹筋の筋力低下により起こりやすいとされています。すでに腰痛のある人は腹筋を鍛えることも痛くてできないことが多いのですが、そんなときは四つ這いで左右対側の手足をあげる運動や腕立て伏せの姿勢をキープするだけでも運動になります。

また高齢者であれば「フレイル予防」という言葉が全国的にも注目され、体だけではなく栄養面や口腔機能（入れ歯の不具合など）の課題や社会参加（役割を持つなど）を推奨する取り組みも始まっており、私たち専門職がいたるところで指導しています。人の体は二十歳頃をピークにゆっくりと衰えていくそうです。人生百年といわれる時代をより健康に元気な体で過ごすことができるよう、病气や腰痛・フレイルに負けない体作りを今からでも遅くはありません。五分、十分でも良いので始めてみませんか。

吉岡 慎司

診療技術部
地域リハビリテーション科
科長代理

砺波市出身
富山医療福祉専門学校
理学療法学科卒。

理学療法士として、日々患者さんの身体の悩みに寄り添われています。

医薬医療の神として知られる大国主大神（大国さま）のご神徳にちなんだこのコラムは、毎回、専門家の方にご寄稿いただき、読者の皆様の生活に役立つ医療知識などを発信いたします。

ご奉納御礼

【参道玉砂利】

安達建設株式会社 代表取締役 安達 正彦殿

【参道玉砂利運搬奉仕】

株式会社 岡部 代表取締役社長 岡部 竜一殿

【参道玉砂利敷設奉仕】

株式会社 藤井組 代表取締役社長 藤井 秀之殿

【境内樹木剪定奉仕】

株式会社 越路ガーデン 代表取締役 西尾 倫顕殿

以上の皆様よりご奉納を賜りました。厚く御礼申し上げます。



大輪あさがお展 開催
期 間 8月9日(金)~12日(月)
展示時間 7:00~12:00

今年も高瀬神社の夏の風物詩、南砺あさがお会主催の大輪あさがお展が開催されます。朝顔は朝のうちが見ごろです。お誘い合わせの上、どうぞ皆様で足をお運び下さい。

能登半島地震で被災された皆様
心からお見舞い申し上げます
復興をお祈りいたします



連載

鎮守の杜 のすたるじい 第4回

田祭り和高瀬の夜高行燈

農事組合法人勸学院
中嶋 幸之丞

山の雪もとけ、砺波平野にもうらかな春が来る。農家は春祭りの頃から水苗代づくりなどの稲作の準備と作業にとりかかる。私も子供の頃、父親に叱られるながら農耕馬の世話などを夜遅くまで手伝われた。隣近所（結び仲間）で田植えの共同作業を終るのが、六月十日の田祭り（祈年穀祭）の頃で、農家ではこれを「やすごと」といって家族で祝い事をしたり、結び仲間同士、山の湯治場で心身の疲れを癒した。

昭和二十〜三十年代、この高瀬（神子畑・大宮司・勸学院）では中学生が中心となり、田祭りに向けての夜高行燈作りが行われ、テレビ等の娯楽もない時代、私も夕飯後、勉強もせず楽しみに参加した。先輩方から型枠作りや竹ひご作りなどを教わ

り、電線配線・紙張り・下絵描き・蛸びき・色付けと、夜遅くまで大変な作業が続いた。

当時の夜高行燈は上部に山車、その下に縦五尺ほどの大型田楽、前面に勇壮な武者絵、後面には豊年満作などと達筆者が墨書し豊作の祈りを込めた。田祭

りにはなんと完成させ、夕方、高瀬神社でお祓いを受けて田楽の大蠟燭に御神燈をいただいた。行燈に豆電球の灯りを入れると、暗くなるにつれて行燈も色鮮やかに映える。農耕の神として古くから崇められる高瀬神社の「ご神徳とご加護」を夜高行燈に託し、その年の豊作と地域の繁栄を祈念して、太鼓を打ち鳴らしながら夜高音頭を唄い、二晩にわたって巡行した。

最後に打ち上げとしてカレーライスを作り、みんなで競って食べた思い出も懐かしく、あの行燈を小・中学生時代によく作



昭和50年代に再興した高瀬の夜高行燈

り上げたものだ、今は感心している。

今年（四十一）年ぶりに勸学院地内圃場にて、高瀬神社献穀田を奉耕することになり、去る五月二十五日にお田植祭が斎行され、多くの農業者や参列者が見守る中、早乙女が心を込めて早苗を植えた。これもご神徳と思ひ、豊作を祈願したい。

このコラムでは、氏子崇敬者の皆様よりお寄せいただいた、高瀬神社にまつわるとっておきの思い出をなしをご紹介します。

表紙写真

うさぎの飾りを内に秘めた夏詣の風鈴。五五〇の風のハーモニー。

編集後記

名も知らぬ遠き島より流れ寄る柳子の実ひとつ。浜辺に流れ着いた柳子の実に、自身の身の上を

社報バックナンバーのご案内
当神社のホームページにてバックナンバーをご覧いただけます。祭典の由緒や行事の沿革など、過去の記事もご参考になさってください。
<https://www.takase.or.jp>

安産祈願 戌の日カレンダー

7月	9日・21日
8月	2日・14日・26日
9月	7日・19日
10月	1日・13日・25日
11月	6日・18日・30日
12月	12日・24日

腹帯のお祓いも行いますので、どうぞご持参下さい。

ご祈祷のご案内

高瀬神社のご祭神は福の神、縁結びの神、医薬医療の神として全国より広く崇敬を集める大国主大神（大国さま）です。当神社では、交通安全（車のお祓い）・家内安全・良縁成就（縁結び）・心身健全・厄除け・病氣平癒他のご祈祷を、心を込めて毎日ご奉仕しています。お気軽に社務所までお問い合わせ下さい。

ご祈祷料 1件につき5,000円より
高瀬神社社務所 0763 (82) 0932

照らした島崎藤村作詞の歌曲「柳子の実」。柳子の実を胸にあて、その長旅での不安や境遇に涙し、やがて帰郷を決意する。故郷を遠く離れた働く人の共感は一とおだらう。

(智)



新参集殿10周年

これからも新たな夫婦の幸福のために。



発行日 令和六年七月一日

発行所 越中一宮 高瀬神社社務所

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291

TEL0763-8210933 FAX0763-8213304

印刷所 牧印刷株式会社



高瀬神社LINE

あなたの人生に、神社がある。越中一宮高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社

検索



高瀬神社HP